

2014 年度事業報告

認定 NPO 法人共存の森ネットワーク

認定 NPO 法人共存の森ネットワークの活動指針

当 NPO は、「聞き書き甲子園」の活動と、この事業に参加した経験をもつ卒業生有志からはじまった「共存の森」と呼ぶ活動を母体に生まれました。

森とともに生きてきた先人たちの伝統的な暮らしの知恵や技の集積の中に持続可能な社会の基本があることを見据えながら、人と自然・人ととの「共存」を基本とした社会づくりと、新たな価値観の創造に寄与することを目的としています。

そのために、当 NPO は「聞き書き甲子園」の運営をはじめ、「閉じられた生態系－地球－」の上で全人類と他の生物が共存するための「人づくり」、「森づくり」、「地域づくり」、「情報発信」等、様々な活動を展開していきます。

これらの活動を末永く続けていくことが、持続可能な社会の構築への一歩と考えます。そのためには、大人たちから若い世代へ、若い世代から大学生・高校生へと、世代をつないでいくことが重要です。

当 NPO の使命と社会的役割について、会員の皆様の積極的な議論を期待するとともに、引き続き、活動へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第1号議案-1 2014年度事業報告（案）<2014年5月1日～2015年4月30日>

概要

前年度に引き続き、「聞き書き甲子園」の開催を通じた青少年教育事業や、大学生による「共存の森」の活動を中心とした森づくり事業、「聞き書き」の手法を活用した地域づくり事業や国内外への普及啓発事業などを実施しました。また、「海・川の名人」への聞き書きや、共存の森・中四国のアマモ場の再生活動、中学生を対象とした海洋教育など、海や川の自然と人の共生をテーマとした取り組みも継続して行っています。

2014年度は、更に小学校を対象とした森林環境教育推進のための事業「学校の森・子どもサミット」の開催を通して、より幅広い世代を対象とした環境教育の推進、次世代の育成に取り組んで参りました。

これらの活動に対するご支援、ご協力に感謝を申し上げると共に、ご報告申し上げます。

1. 人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

「聞き書き甲子園」は、2014年度で第13回目の開催となりました。本年度は、「持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」の最終年であり、様々なESDに関連する場において、卒業生らによって編成された学生スタッフメンバーが、普及啓発に取り組む機会を得ました。

また、小中学生が海や川の生業や地域の環境・歴史・文化を学ぶ教育活動支援や事例調査を通じ、海洋教育の普及にも引き続き取り組んでいます。

2. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

「聞き書き甲子園」の卒業生有志から始まった「共存の森」の活動は、全国6地区7地域にて活動を行いました。東海地区では地域の課題に応じた竹林整備、北陸地区では棚田の保全活動と聞き取りをベースにしたパンフレット作り、九州地区では村の暮らしに関する聞き書きと廃校の裏山整備を実施する等、各地区の特色を生かした活動に取り組みました。

なお、「共存の森」北陸チームは、引き続きキヤノンマークティングジャパングループの社会貢献活動「未来につなぐふるさとプロジェクト」の協働パートナーとして、企業・地域・学生の三者協働による活動を行っています。

3. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

今年度より林野庁とその関連団体との協働により「学校の森・子どもサミット」を開催するための事務局を担うことになりました。東京で第1回サミットを開催し、全国から集まった小学生児童による森林体験学習についての発表、学校現場の課題解決のための分科会などを通じて、小学校での森林環境教育の普及・啓発に取り組みました。

当NPOの学生会員を中心とした「コトバのたびプロジェクト」（「聞き書き」と朗読を組み合わせた活動）は、本年度は、被災地支援を行っている学生団体Youth for 3.11との協働で、宮城県で実施しました。

また、全国アマモサミットとの併設イベントである「第2回海辺の自然再生・高校生サミット」を、NPO法人海辺つくり研究会との協働により青森県で開催しました。

4. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

前年度に引き続き、第3回「能登の里山里海人の知恵の伝承事業」を石川県世界農業遺産活用実行委員会より受託し、実施しました。また、同じく世界農業遺産に指定された大分県国東半島・宇佐地域で高校生による「聞き書き」を支援しました。

I 組織

1. 会員 (2015年4月30日現在)

	一般会員	ユース会員	法人・団体会員
正会員	48人 (+3)	50人 (0)	
賛助会員	31人 40口 (+1人、+1口)		4社 8口 (+1社、+1口)

※ユース会員・・・・・・満23歳未満で正会員となる方

※ ()・・・・・・昨年同時期からの増減

2. 役員 (敬称略)

体制表

役職	氏名	所属
理事	滝澤 壽一	NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会理事長
理事	吉野 奈保子	「聞き書き甲子園」実行委員会事務局
理事	竹田 純一	里地ネットワーク事務局長
理事	あん まくどなるど	上智大学大学院地球環境学研究科教授
理事	木村 尚	NPO 法人海辺つくり研究会理事・事務局長
理事	中山 幹生	東京農業大学農山村支援センター研究員
理事	工藤 大貴	慶應義塾大学3年
理事	岡部 憲和	九州大学大学院2年
理事	峯川 大	大東文化大学4年
理事	大黒 朱梨	同志社大学3年
監事	能登谷 愛貴	NPO 法人都岐沙羅パートナーズセンター職員
監事	森山 里菜	株式会社渋谷サービス公社職員

II 事業

1. 人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

① 第13回「聞き書き甲子園」の開催

「もりのくに・にっぽん運動」の一環として実施している「聞き書き甲子園」は、全国の高校生が、森や海・川に関わる様々な分野で活躍する「森の名手・名人」「海・川の名人」への「聞き書き」を通して、名人が先人たちから受け継いできた自然と共に生きる知恵や技、ものの考え方等を学ぶとともに、世代間のコミュニケーションを図ることで、次代を担う若者を育成することを目的に行ってています。

農林水産省、文部科学省、環境省、公益社団法人国土緑化推進機構、公益社団法人全国漁港漁場協会、全国内水面漁業協同組合連合会と当NPOの7者で構成する実行委員会が主催し、株式会社ファミリーマートの募金協力をはじめとする企業・団体からの寄付金や協賛金、公益財団法人日本財団の助成金により実施しています。

今年度は、全国から99校（うち35校が新規応募校）から150名の応募があり、うち100名の高校生が参加しました。

参加高校生は8月の事前研修で「聞き書き」の手法や名人の仕事についてなど、取材に必要な知識とスキルを学び、9月から12月にかけて名人の取材を行いました。これらの総括となる3月のフォーラムでは3組の高校生と名人が「聞き書き」の体験談を発表した他、「『聞く』ことから始める地域づくり」と題して、大学生や若者によるパネルディスカッションを行いました。また参加高校生はワークショップを通して「聞き書き」の取り組みを振り返り、今後の自身の生き方について考えました。

[2014年度の実施スケジュール]

5月9日～7月1日	参加高校生募集
7月21日	参加高校生決定
8月11日～14日	聞き書き事前研修実施（於：都民ホール、高尾の森わくわくビレッジ）
9月21日～12月	参加高校生による名人への取材
1月7日	聞き書き作品の提出締切り・優秀作品（6作品）の選考
3月28日～29日	フォーラム（成果発表会）開催（於：東京大学弥生講堂一条ホール）
4月21日	「聞き書き作品集」完成、参加者・関係者に送付

◆ 「聞き書き甲子園×森の教室どんぐりくんと森の仲間たち in 海の森」の実施

フォーラム翌日の3月29日には、東京都中央防波堤内側埋立地「海の森」にて、「聞き書き甲子園×森の教室どんぐりくんと森の仲間たち in 海の森」と題して、株式会社ファミリーマートの募金協力により参加高校生と埼玉県みわ幼稚園の園児と家族60名が参加して植樹活動を行いました。なお、同事業は「東京都海の森俱楽部」の会員事業として東京都港湾局の共催により実施しました。

※「東京都海の森俱楽部」は、「海の森」について広く国内外に発信するとともに、多様で魅力的な行催事や樹林地管理等の機会を広く都民に提供し、都民サービスの向上を図るために、東京都港湾局が企業、団体等に広く参画を呼びかけ設置した任意組織で、当NPOも会員として加入しています。

※「森の教室 どんぐりくんと森の仲間たち」とは、（公社）国土緑化推進機構がファミリーマートの店頭募金「夢の掛け橋募金」の寄付により実施しているプログラムです。全国の幼稚園・保育園を巡回し、園児たちがどんぐりの苗木を育てることを通して、森の大切さを学ぶ教室です。

◆ FOXFIRE 俱楽部の開催

「聞き書き甲子園」の運営にかかる行政、協賛企業、団体等が集まり、「もりのくに・にっぽん運動」全般や「聞き書き甲子園」の今度の展望について意見交換を行う会議で、2014年度は7月8日と10月28日に開催しました。会では学生スタッフより事業報告を行い、学生発案の企画に対する意見交換等を行ったほか、交流会を通して「聞き書き甲子園」に対する考え方や想いを共有しました。

※「もりのくに・にっぽん運動」とは2002年度に「森の名手・名人」の選定事業を軸に、公益社団法人国土緑化推進機構の呼びかけにより始まった。現在は「先人たちから受け継いだ知恵や技を改めて見出し、次世代に継承することを通じて、人と自然が共存する新たな価値観とライフスタイルを提唱し、持続可能な社会づくりに貢献することを目指す」ことを目的とし、「森・海・川の名人選定事業」「聞き書き甲子園の実施」「森と人、人と人、世代と世代をつなぐ地域づくり活動の推進」「国内外への普及・啓発活動の展開」の4つの事業を行う市民・行政・企業・NPOなど多様な主体のプラットフォームとして位置づけ、同機構と当NPOが事務局を担っている。

◆ 「聞き書き作品」電子図書館化

「聞き書き電子図書館」はウェブ上で聞き書き作品を検索・閲覧できるシステムで、一般社団法人農山漁村文化協会と協働で運営を行っています。昨年度は、第12回聞き書き甲子園の作品のデータを整理し、同電子図書館へ収録しました。現在、計1174作品を収録しています。

◆ ESD ユネスコ世界会議を通した国内外への発信

ESD ユネスコ世界会議開催にあわせて、愛知県名古屋市で11月8~9日に行われた「あいち・なごやESD交流フェスタ」で、「聞き書き甲子園」のブース出展と卒業生によるステージ発表を行いました。また、11月12日に名古屋国際会議場にて行われた併催イベント「ESD交流セミナー」のうち、林野庁主催による「森林環境教育の充実とESDの推進」で「聞き書き甲子園」の取り組みを発表しました。

※ESDは、Education for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳します。今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

② 海洋教育プログラムの実施

昨年度に引き続き、小中学校での海洋教育の普及を目指して、石川県輪島市と岡山県備前市にて小中学生を対象とした海洋教育プログラムを実施しました。

石川県では、石川県教育委員会生涯学習課と協働で、「海洋チャレンジプログラム」を実施。石川県の大学生がサポートに入り、小学生の舳倉島での海女と地域の暮らしを学ぶ体験活動を実施しました。

岡山県備前市立日生中学校では、中学1年と3年（計120人）によるアマモ場の再生活動と、中学1年生による水産関係者やアマモ場再生に関わるNPO職員等への「聞き書き」が行われ、「聞き書き甲子園」の卒業生を中心とした大学生が年間を通して授業のサポートと、まとめ作業のサポートを行いました。また、これらの取り組みを、8月19日は日生町漁業協働組合で地域住民（参加者約40名）を対象に、また、3月23日には岡山市内のオルガホールでアマモ場の再生活動に取り組む関係者（参加者約80名）を対象に、セミナーを開催し、発表しました。

あわせて、全国各地の小学校の「海洋教育」の実施状況等に関する事例調査を行いました。

2. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

① 「共存の森」の活動

関東、関西、北陸、東海、中国・四国、九州の6地区、7地域で活動を行いました。

＜各地区的活動概要＞

関東地区：千葉県市原市の「鶴舞創造の森」では、昨年に引き続き、散策道の整備等を行いました。また、山小川地区では地域の魅力を発信するための「地元学」を行い、その様子は10月にBSフジの『Table of Dreams～夢の食卓～』で紹介されました。

関西地区：滋賀県大津市堂町では、龍谷大学の学生が立ち上げた「お野菜大学」と共同で、堂町の祭礼行事等の手伝いを行ったほか、4月には同大学にて映画『森聞き』の上映会を行い、学生や近隣の里山で活動する人に対して、共存の森の活動紹介を行いました。奈良県川上村高原地区では地域の空き家マップと、これまでの「聞き書き」のとりまとめを行うとともに、これらの活用方法について地域の方との意見交換を行いました。

北陸地区：今年度は全参加者が新メンバーと言う顔ぶれだったため、活動フィールドである新潟県村上市高根地区についてよく知ることを目標に活動を行いました。例年行っているキヤノンマーケティングジャパングループとの棚田の保全活動や地区の行事への参加と並行して、地域の人たちへの聞き取り調査をもとに高根フロンティアクラブが運営する食堂「IRORI」のパンフレット製作を行い、次年度から長期的な視野で活動を行うための話し合いを重ねました。

東海地区：愛知県豊田市足助の椿立地区にて、地域の方と共に竹林整備を行い、竹の活用を行うために竹灯籠や竹炭の試作品の製作を行いました。また、地元の高齢の方4名から椿立で行われてきた竹の利用方法について話を聞き、今後の竹の活用方法について検討しました。

中国・四国地区：岡山県備前市日生にて、日生町漁業協働組合とおかやまコープと共にアマモ場再生活動に取り組み、あわせて、漁協役員より日生の漁業や魚食文化の聞き取りを行いました。また、日生中学校の海洋教育の支援を行いました。

九州地区：福岡県八女市矢部村にて、活動拠点となっている「杣のふるさと文化館」（矢部中学校の旧校舎）の裏山整備を行い、公園の看板作りを行うとともに、地域の暮らしを知るために地元料理をふるまう食堂を運営する地域のお母さん方や地域の若者など4組の「聞き書き」を行いました。

《活動回数と参加者》

関東地区 5回、延べ46人（1回当たり平均9.2人）

関西地区 [堂] 7回、延べ29人（1回当たり平均4.1人）

[高原] 3回、延べ19人（1回当たり平均4.75人）

北陸地区 7回、延べ133人（1回当たり平均19人）

東海地区 5回、延べ30人（1回あたり平均6人）

中国・四国地区 3回、延べ30人（1回あたり平均10人）

九州地区 4回、延べ13人（1回あたり平均4.3人）

活動回数：フィールドでの活動のみ（会議、打ち合わせ等は除く）

参加者：活動に協力いただいている地域の方や事務局スタッフ等は除く。

② キヤノンマーケティングジャパングループとの協働活動

共存の森「北陸地区」では、キヤノンマーケティングジャパングループの社会貢献活動「未来

につなぐふるさとプロジェクト」の協働パートナーとして、高根フロンティアクラブとともに、「棚田のふるさとづくり」の活動を実施しています。

今年度は、前年度に引き続き、稲作を体験しながら、高根集落の暮らしや自然を体験するプログラムを実施しました。また、同社による写真教室のサポートも行いました。

《活動回数と参加者》

北陸地区：4回 延べ103人（1回あたりの平均25.8人）

活動回数→フィールドでの活動のみ（会議、打ち合わせ等は除く）

参加者→活動に協力いただいている地域の方や事務局スタッフ等は除く。

3. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

① 「学校の森・子どもサミット」の開催

学校の森・子どもサミットは、全国から集まった子どもたちによる「学校林」や国有林における「遊々の森」等の身近な森林を活用した学校での体験活動や教育活動の発表、森林（もり）づくりの夢の発表、身近な森林を活用した学校教育を広げていくための先生方の意見交換などを行い、これらの情報発信を通じて、小学校における森林環境教育の活動の輪を全国に広げていくことを目的としています。同サミットは、林野庁とその関連団体等で組織した実行委員会が主催し、当NPOはその事務局を担いました。

本年度の第1回サミットは、KDDI株式会社、一般財団法人セブン・イレブン記念財団など複数の企業・団体による協賛や積水ハウスマッチングプログラムによる助成等により、8月5日～6日に東京で開催しました。当日は、全国12校46名の児童による森林体験学習についての発表や分科会を開催し、約250名が来場しました。サミット翌日は、参加校を対象に、明治神宮での森林体験学習を行いました。

② 「コトバのたび」プロジェクトの実施

「コトバのたび」プロジェクトは、「聞き書き」とその「朗読」を組み合わせた活動で、地域と有機的につながっていきたいという当NPOの学生の想いから企画されました。本年度は、被災地支援を行っている学生団体Youth for 3.11との協働プロジェクトにより、宮城県北上町十三浜大指と宮城県牡鹿半島福貴浦にて1月から3月にかけて、KDDI株式会社の支援等により実施しました。また一昨年、新潟県村上市高根区で行った同プロジェクトの冊子「たかねのね」は、同社の協力によりauの電子書籍に無料配信されました。今回の宮城県でのプロジェクトで制作する冊子についても、完成次第、電子書籍として配信される予定です。

③ 「海辺の自然再生・高校生サミット」の開催

「海辺の自然再生・高校生サミット」は、海辺の自然再生に取り組む全国の高校生による活動発表や交流活動を通して、次世代を中心とした活動の輪を全国に広げていく取組みです。本年度は9月27日に、青森県で行われた「全国アマモサミット in あおもり」の併設イベントとして、第2回の高校生サミットを一般財団法人セブン・イレブン記念財団の助成により、NPO法人海辺つくり研究会とともに開催しました。全国6校14名の高校生による活動発表の場には、約100名が来場し、活発な意見交換を行いました。

4. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

① 能登の里山里海人の知恵の伝承事業

前年度に引き続き、「能登の里山里海人の知恵の伝承事業」を石川県世界農業遺産活用実行委員会より受託し、実施しました。本年度は、能登半島の 11 校 24 名の高校生が参加し、11 人の「能登の里山里海人」の聞き書き作品を冊子にまとめました。

② 大分県国東半島宇佐地域での高校生による聞き書き

能登半島と同じく、世界農業遺産に選定された大分県国東半島・宇佐地域において、高校生による名人の「聞き書き」が、大分県の事業として実施されました。当 NPO は、6 校 12 名の高校生を対象とした「聞き書き」研修の運営や作品のまとめの指導を行いました。

5. その他

① 運営委員会の開催

学生理事や「共存の森」各地区のリーダーを中心に、「共存の森」の活動方針等について話し合う「運営委員会」を 8 月 15 日、12 月 27 日-28 日、3 月 27 日に行いました。「共存の森」各地区の活動計画に関する意見交換や活動費用に関する検討を行ったほか、今後の学生による活動運営方法等についての自由な意見が交わされました。

② インターン生の受入

公益財団法人損保ジャパン環境財団「CSO ラーニング制度」を通して、2014 年 6 月～2015 年 1 月まで東京農業大学の本間耕太郎さんをインターンとして受け入れました。また 2014 年 7 月～10 月まで日本農業経営大学校から一期生の尾曾和成さんをインターンとして迎えました。

③ 広報活動

年 2 回発行している当 NPO の会報誌『ZON』、ホームページ、facebook、オフィシャルブログ、公式 twitter、メールマガジン等を通して広報活動を行いました。また、他団体が主催するイベントへのパネル出展等も行いました。

(1) 出展・発表イベント

11 月 8～9 日 : ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや併設イベント「ESD 交流フェスタ」
(主催 : ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや実行委員会 於 : 愛知県名古屋市)

11 月 12 日 : 同「ESD 交流セミナー」のうち「森林環境教育の充実と ESD の推進」
(主催 : 林野庁 於 : 愛知県名古屋市)

12 月 11～13 日 : エコプロダクツ 2014
(主催 : (一社) 産業環境管理協会、日本経済新聞社 於 : 東京都江東区)

2 月 11 日 : 第 2 回おかやま環境ミーティング
(主催 : 岡山県、おかやま環境ミーティング実行委員会 於 : 岡山県岡山市)

3 月 25 日 : ESD ユース全国大会 (主催 : 環境省 於 : 東京都港区)

(2) 新聞・雑誌等の掲載

「聞き書き甲子園」関連： 25 件 「共存の森」関連： 4 件

「学校の森・子どもサミット」関連： 8 件

(3) ラジオ・テレビ番組等

「聞き書き甲子園」関連： 0 件 「共存の森」関連： 1 件

「学校の森・子どもサミット」関連： 2 件

④ 寄付金募集活動

2014 年の 8 月から 2015 年 2 月まで株式会社良品計画のご協力により無印良品のネット通販サイトの寄附ページにて当団体をご支援いただきました。また、株式会社ネットプロダクションが運営する「フルルポイント」のポイント交換先として紹介頂き、交換されたポイント分の寄付をいただきました。また、昨年から引き続き、株式会社セプテニ・ホールディングスが運営する寄付サイト「gooddo (グッドゥ)」、キヤノンマーケティングジャパン株式会社のクリック募金、

公益財団法人パブリックリソース財団の運営する「Give One」などインターネットサイトを通じた寄付をいただいている。